

【 設問アプローチ 】

[19 - B]

問1 : ① [設問チェック] 傍線部と〈 同じ 〉漢字を選ぶ問題であることを把握する。

② [アプローチ] 本文読解の際、傍線部に差し当たってその語句に適切な漢字を文脈を参考にしながら判断し、本文の空いているところにメモしておく。

③ [設問読解] 本文を一通り読み終えてから、改めて設問文を確認し問題を解く。
②を踏まえて、選択肢から傍線部と同じ漢字を使用する語句を、解答として選ぶ。

問2 : ① [設問チェック] 傍線部の〈 内容説明 〉を明らかにした上で、その内容に関する〈 理由 〉を答える問題であることを把握する。

② [本文読解] まず、8行目の辺りに『音楽を楽譜という形で紙に「書き記す」という伝統』とあるように、傍線部①が『音楽を「書き記す」』ことについて論じた〈 意味段落 〉の一部であることを把握する。

その上で、傍線部①前後の内容を確認すると、「口頭伝承」から「記譜法」への移行と、「記譜法」により可能になったことが述べられている。

そして、傍線部①の〈 内容説明 〉については、文脈から傍線部①以降に記述されていることが読み取れる。

傍線部①以降の内容では、「記譜法」により可能になったことが述べられており、特に「つまり」、「すなわち」などの要約の論理語によって要点が挙げられている。

これらの要点の中でも、28行目～30行目の内容と34行目～36行目の内容をそれぞれ傍線部①に関する内容の〈 要点 〉と見てとることができる。

③ [設問読解] ②で確認した本文の〈 要点 〉を中心として、本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

問3 : ① [設問チェック] 傍線部について〈 筆者の考え方 〉が問われていることを把握する。
→ [アプローチ] 傍線部の〈 内容説明 〉を本文中から掴んだ上で、傍線部に関する〈 筆者の考え方 〉を明らかにする。

② [本文読解 I] まず、傍線部②を含む37行目の段落から〈 意味段落 〉が変わっていることを把握する。

その上で、傍線部前後の内容を確認すると、傍線部③の〈 内容説明 〉は傍線部③までの部分にあることが読み取れる。

37行目 ～ 43行目の辺りの内容を細かく確認すると、40行目に「- でしかない。」とあるように、〈 Aではなく、B構文 〉の変形型で内容説明がなされている。

この部分の内容をまとめると、「音楽は楽譜だけではいまだ音楽ではなく、実際に演奏されることで初めて音楽になる」という内容が読み取れる。

- ③ [本文読解 II] 次に、傍線部②以降の内容を確認すると、傍線部②の直後の一文が「言い換えれば、」で始まっていることから、傍線部②に関する内容が傍線部②以降にもあることが分かる。

44行目 ～ 52行目の内容を確認すると、「テキスト」というキーワードが提示され、『音楽作品は「テキスト」であり、それにより誰が演奏しても特定の音楽作品として同定される』と述べられている。

- ④ [設問読解] ②と③で確認した内容の要点が、傍線部に関する〈 筆者の考え方 〉であるので、これを踏まえて本文の内容を適切に説明している選択肢を、解答として選ぶ。

問4 : ① [設問チェック] 傍線部の〈 内容説明 〉が求められている問題であることを把握する。
また、傍線部中に「無名性」というキーワードがあるので、この〈 内容説明 〉を本文から明らかにする。

- ② [本文読解] 傍線部③の前後の内容を確認すると、傍線部直前の67行目に「つまり、」という要約の論理語がある。このことから、傍線部③の〈 内容説明 〉は傍線部③までにあることが〈 予想 〉される。

傍線部③までの内容を確認すると、58行目の「音楽の筆記性」、62行目の「即興演奏」をそれぞれキーワードとした内容説明がなされている。

「音楽の筆記性」が飽和状態となり、「即興演奏」が台頭した経緯が説明された文脈の流れで、65行目に「したがって、」、67行目に「つまり、」の要約の論理語があり、それに続いて傍線部③があることが見て取れる。

以上のことから、傍線部に関する内容(話題)とその要点を設問の〈 根拠 〉として捉える。

- ③ [設問読解] ②で確認した本文の内容と要点を踏まえて、
本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

問5 : ① [設問チェック] 傍線部に関して、〈 理由 〉が求められていることを把握する。
また、傍線部中に指示語「そういう」があるので、その〈 内容説明 〉を本文から明らかにする。

- ②〔本文読解〕まず、100行目に『作曲家たちは、再び、「作曲とは何か」という問題を問い直しつつある』とあるように、傍線部④を含む99行目からの段落は、本文のテーマである『「音楽とは何か」という問い』に対して〈結論〉を示した〈意味段落〉になっている。

その上で、傍線部④の内容を確認する。

傍線部④中の指示語「そういう」の指示内容は、103行目～105行目の辺りにある。また、文脈を読み解くことで、傍線部④の〈内容説明〉は傍線部④までの範囲にあることが分かる。

以上を踏まえて、傍線部④の〈内容説明〉のポイントをまとめると、
『口述的音楽の洗礼を受けた作曲家たちは、音楽の筆記性に「近代」の超克を見出すようになった』ということが読み取れる。

- ③〔設問読解〕②を踏まえて、本文の内容を適切に説明している選択肢を、解答として選ぶ。

問6：①〔設問チェック〕「本文の内容に合致するもの」を選ぶ問題であることから、特定の部分ではなく、本文全体から〈根拠〉を求める問題であることを把握する。
また、適当な内容を選択肢から〈二つ〉選ぶということにも注意しておく。

→〔アプローチ〕本文全体から〈根拠〉を求める設問では、
先に選択肢文の内容に目を通し、ポイントとなる内容にチェックを入れておく。

- ②〔本文読解〕本文を読解する際に、内容の要点や文構造をチェックして内容を通して把握しておく。

- ③〔設問読解〕①でチェックした選択肢文の要点と、②でチェックした本文の要点とを照らし合わせて、適切な選択肢文を吟味する。

この際、単に文章の内容の正誤を確かめるだけではなく、文章の流れも正しく汲んだ内容説明になっているかを確認する。